

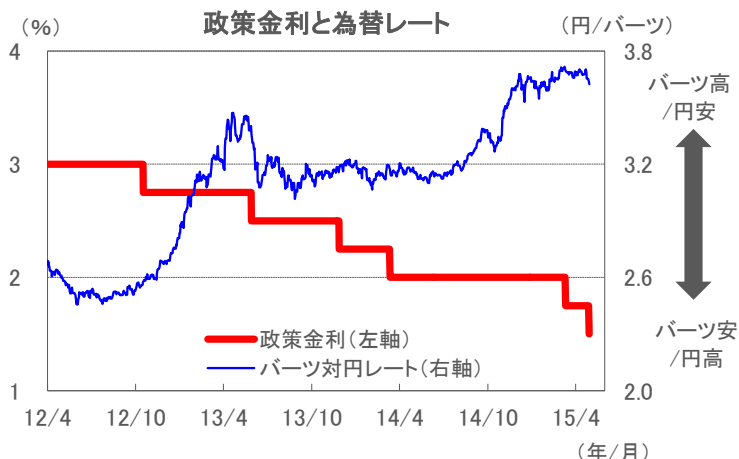
今日のトピック

タイ中銀、2会合連続の利下げ

ポイント1 政策金利を0.25%引き下げ

利下げは2会合連続

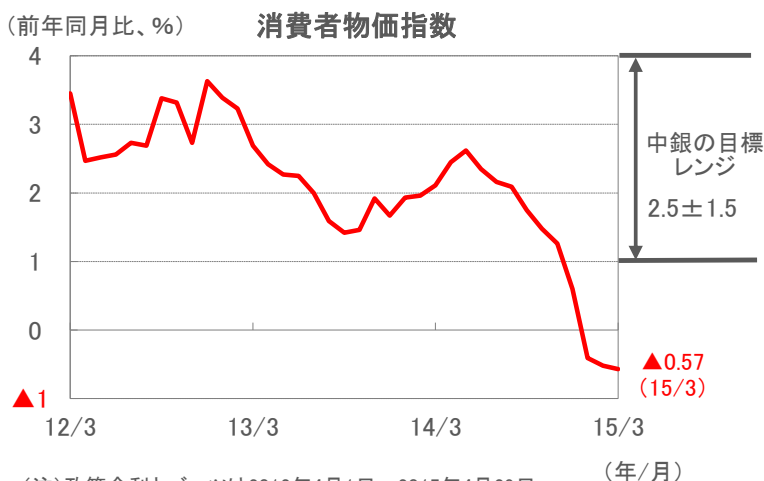
- タイ銀行(中央銀行、以下中銀)は29日、定例の金融政策会合で政策金利を0.25%引き下げ1.50%とすることを決定しました。利下げは2会合連続です。ブルームバーグの集計によると、エコノミスト20名のうち18名が据え置きを予想していました。
- 会合では、5人の委員が利下げへ、2人の委員が据え置きへ投票しました。利下げ決定は、景気下振れへの強い懸念が背景です。



ポイント2 景気の下支えを目指す

物価はマイナス圏

- 中銀は、輸出や消費が下振れる懸念が強まったと見えています。中国向けをはじめ輸出が全般に伸び悩んでおり、利下げにより通貨パーツ安を促し、輸出を支えるねらいがあると見られます。
- 物価は、内需の弱さやこれまでの原油安により前年比マイナスで推移しています。中銀は今後もマイナス圏で推移するリスクが強まっているとし、デフレの表現を避けつつも、物価への懸念を強めています。
- パーツは29日、対米ドルで前日比0.6%、対円で同0.5%のパーツ安となりました。



(注) 政策金利とパーツは2012年4月1日～2015年4月29日。
消費者物価指数は2012年3月～2015年3月。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 物価の低下基調から追加利下げの余地を残す

- 利下げによる輸出と消費の回復や、公共投資の押し上げ効果で、景気は緩やかな回復が見込まれます。ただし、政策効果が波及するには時間を要すると見られることから、当面は景気下振れのリスクが優勢となりそうです。
- 物価がマイナス圏で推移する可能性が強いことや景気の下振れ懸念が残ることから、追加利下げの余地がありそうです。

ここも
チェック!

2015年04月27日 世界の「投信マネー」4月は引き続きインドの株式、債券ファンドに流入
2015年03月12日 タイ中銀が予想外の利下げ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。